第1 予算審査特別委員会（第1 日目）

R6.3.12（火）13：00～

第二・第三委員会室

開 会 13：00

委員長挨拶

委員長 それでは、ただいまより第1 予算審査特別委員会を開会いたします。

委員動静報告

委員長 ただいまの出席委員数は7名であります。
山口委員より欠席の申出を受けております。

これより本日の会議を開きます。
本委員会に付託されました事件は、

議案第1号 令和6年度滝川市一般会計予算

議案第14号 職員の育児休業等に関する条例及び滝川市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

議案第15号 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例等の一部を改正する条例

議案第16号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

議案第19号 滝川市三世代交流センター条例の一部を改正する条例

議案第21号 滝川市農村環境改善センター条例の一部を改正する条例

議案第22号 公の施設の指定管理者の指定について（三世代交流センター）

以上、7件となっております。

なお、関連議案は、議案第14号、第15号、第16号、第19号、第22号が歳出関連で、議案第21号が歳入関連でございますのでご留意願います。

次に、審査の方法について協議いたします。

まず、日程についてですが、配付されております別紙日程表に基づき3日間で行うこととし、終了時間については遅くとも午後4時をめぐり取り進めることよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

委員長 異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたします。

次に、審査の進め方について協議いたします。

歳出は款別に、歳入は一括して説明を受けた後それぞれ関連議案を含めて質疑を行うものとしますが、消防費、公債費、諸支出金、職員費、予備費につきましては科目数が少なく、関係所管も限られていることから一括して審査することとし、討論、採決については最終日に行うことよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

委員長 異議なしということで、そのように決定いたします。

なお、意見は討論の際に述べていただくことになっておりますので、質疑は簡潔に行っていただき、特に付託事件以外の質疑は行わないようにご留意願います。

また、1つの答弁に対する再質疑などの回数は特に設けることはいたしません。答弁については、部課長に限らず、内容を知り得る方に行っていただきます。マイクのない椅子席の方が答弁されるときには、手を挙げて許可を得てからハ

ンドマイクのある机に移動し、所属、職名、氏名を述べてから答弁をお願いいたします。ハンドマイクのある机は両サイドにあります。どちらで答弁されても構いません。

次に、市長に対する総括質疑は審査日程の最終日に予定しておりますが、審査の過程で特に留保したものに限るということでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長

異議なしということなので、そのように決定いたします。

次に、討論ですが、付託されております7件の関連議案について一括して各会派の代表の方に行ってもらおうこととしますが、公明党の私三上は委員長の職を全うするため、委員としての討論を今回は行わないこととします。そのため討論の順番は、市民ネットワーク、新政会、高橋委員、柴田委員の順とすることとよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長

そのように決定いたします。

なお、各会派から出されました討論要旨につきましては、後日事務局で一括整理し、議員にのみ印刷配付することになっておりますので、ご了承願います。最後に、資料請求の関係でお諮りしたいと思いますが、予定されている資料につきましては既にお手元に配付されております。これ以外の関係で資料要求される方は、その必要性を会議に諮り、所管部局の都合を確認した上で決定したいと思いますが、これでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長

異議なしということで、そのように決定いたします。

藤田

それではまず、冒頭に資料要求をされる方はいらっしゃいますか。

令和6年度予算の参考にしたいと思いますので、令和5年度のスコレ滝川スポーツクラブの月別の利用者数の推移の資料を要求したいと思います。

委員長

そのほかにいらっしゃいますか。

(なしの声あり)

委員長

ただいま藤田委員からスコレ滝川の月別利用者数の資料提出の要求がございました。所管では用意できますか。

運上課長

月別の利用者数、いわゆる一般利用者のということとよろしいでしょうか。承知いたしました。準備いたします。

委員長

所管では対応可能ということなので、藤田委員からの要求がありましたスコレ滝川月別利用者数の資料について本委員会として要求することに異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

委員長

異議なしということで、所管におかれましては藤田委員から要求がありました1件について速やかに資料の提出をお願いいたします。

ほかにはございますか。よろしいですか。

(なしの声あり)

委員長

なしと確認します。

以上で審査方法についての協議を終了し、早速審査に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長

それでは、日程に従いまして審査を進めます。

総括

委員長
和田部長
委員長
最初に、総括についての説明を求めます。
(総括について説明する。)
説明が終わりました。
総括は款別にならないように質疑願います。質疑ございますでしょうか。よろしいですか。

(なしの声あり)

委員長
それでは、以上で総括の質疑を終結いたします。
それでは、款別の審査に入ります。

議会費

委員長
深村事務局長
委員長
議会費の説明を求めます。
(議会費について説明する。)
説明が終わりました。
これより関連議案第15号を含めて一括で質疑に入ります。質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長
ないようですので、質疑の留保はなしと確認してよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長
そのように決定いたします。
以上で議会費及び議事費における関連議案第15号の質疑を終結いたします。
ここで所管入替えのため暫時休憩いたします。

休 憩 13:18

再 開 13:20

委員長
休憩前に引き続き会議を再開いたします。

総務費

委員長
和田部長
総務費の説明を求めます。
(総務費のうち総務部が所管する部分、一部他の所管の部分も含めて増減の主なものについて説明する。)

浦川部長兼理事
委員長
(総務費のうち市民生活部に関連する予算について説明する。)

説明が終わりました。
これより関連議案第14号、第15号を含めて一括質疑に入ります。
質疑ございますか。

藤 田
総務費の予算書68ページ、69ページの2款1項3目、駅周辺整備に要する経費について5点ほど伺いたいと思います。

まず、1点目、その他諸費の内訳についてお聞きします。節の科目と金額をそれぞれ伺います。

2点目、駅周辺整備に要する経費は合計で1,663万8,000円となっておりますが、68ページに記載のある本年度の財源内訳について特定財源は見込んでいるのでしょうか。

3点目、支援業者の委託の見当はおおよそついているものなのでしょうか。

4点目、基本計画策定の策定手順などのスキームはどのようなものなのかを伺います。

5点目、基本計画の調査結果などは、どのようなタイミングで示されていくものなのでしょうか。

以上、5点になります。

委員 長
山下係長

それでは、答弁を求めます。

駅周辺整備に要する経費について答弁申し上げます。

まず、その他諸費の内訳についてですが、その他諸費につきましては8節旅費としまして17万7,000円、その他10節需用費、消耗品として24万7,000円を計上したところですが、内訳については以上です。

続いて、支援業務の業者についてのご質疑ですが、支援業務につきましては関係法令、地方自治法、財務規則等に基づいてこれから契約について手続を進める段階にございますので、現時点で決定はしておりません。

続いて、基本計画の策定のスキームということのご質疑です。まず、基本計画については、これまで基本構想において何のために何をやるかというようなことを決定をさせていただいたところですが、基本計画においては、これからどのように整備をするか、そして誰がやるかといった部分について検討をしていきたいというふうに思っています。具体的な検討フローについては、現在検討を進めているところで、決定している部分はございませんが、主に検討する内容としましては機能の構成やその規模、配置、動線といった整備計画に関するもののほか、事業手法、スケジュール、概算事業費といった事業計画に関するもの、また加えて施設の運営をどのようにしていくのかといった運営計画、この大きく3点について検討していきたいというふうに考えています。またあわせて、これらの事項を検討するに当たって民間活力の導入可能性も検討しながら、基本計画の策定を進めてまいりたいというふうに思っています。

調査結果をどの段階で示していくのかというような質疑ですが、今回基本計画を策定するに当たって民間活力の導入の可能性の調査を実施をしようと思っております。これらについては、この後基本計画で定めた整備に関してその事業手法を決定するための調査という形になりますので、現在明確にいつまでにということをお示しするような段階にございませんが、事業手法を決定するまでにはその調査を終えて、事業手法の決定をしていきたいというふうに思っています。

林 係 長

駅周辺整備に要する経費の財源内訳についてご説明させていただきます。

ふるさと基金繰入金金が1,620万円、一般財源が43万8,000円となります。

委員 長
関 藤

ほかに質疑ありますか。

それでは、今藤田委員が質疑されたところと同じ案件と、併せて大きく2点質疑させていただきます。

まず最初に、今藤田委員が質疑された内容の件につきまして質疑させていただきます。この1,621万4,000円、これは駅周辺整備事業に係る調査費用等々の予算だと思うのですが、この予算については次のステップ、段階に行くための調査項目ということの内容の予算だと思いますので、まずこの予算を承認するか、しないかについてですが、当然この案件につきましては前段階で総務文教常任委員会でも示された駅周辺整備の基本構想のこの原案にのっとってのことだと思いますので、この駅周辺整備の基本構想の原案の内容に若干触れた質疑となるかもしれませんが、委員長、その内容につきまして質疑することを許可いただけるでしょうか。

委員 長
関 藤

基本計画に非常に関連していると思いますので、質疑を認めたいと思います。

ありがとうございます。それでは、1点目、質疑させていただきます。

まず、この予算を計上するに当たって、どうしても納得いかない部分が1点ご

ざいまして、この基本構想の原案がつくられるまでに当たって、様々なパブコメ等々、また関係諸団体からの意見などを聴取されたと思うのですが、それはどういった団体やどういった方々からどの程度の数の意見を徴収されたのかをお伺いいたします。

次に、この基本構想の原案の見積りに具体的に1から3のパターンで数値が示されています。これは、誰がどのように作成されていたものなのか、そしてまた今回この調査費用でいろいろな先ほど答弁いただいた内容について基本計画等々ではつくられていくと思うのですが、あくまでも最初に示されたこの3つのパターンに沿って調査項目を調査してもらうのか、その点についてお伺いします。

また次に……今私質疑しているのもあって、委員長に許可もらっているのに、外野席のほうちょっと黙っていただけですか。

次に、仮にこの事業者によって出された事業計画、これから調査していただいて、いろいろ出してくるのだと思うのですが、これが財政的に厳しい状況になったときに、財政健全化計画と併せてこの計画というものが一度立ち止まるということも市長答弁もいただいているのですが、そういった考え方はあるのか。そしてまた、先般の代表質問の中でも市長の答弁の中で財政難となる計画は想定していないという答弁をいただいているのですが、計画を想定していないということは、どのような状況が財政難なのかというのを考えておられるのか。

その次に、一番私が懸念しているのは、この事業を進めるに当たって本来であればこの基本構想の原案がつくられる前に、市民の財産を使って行うわけですから、当然市民の十分な意見を聞いて、それから基本構想のこの原案がつくられて、そしてこれを議会に示されて、議会でもんで、それでもまだ私たちも専門ではありませんので、こういった予算で専門家の意見を聞きながら進めていくというのが本来の筋ではないかと思うのですが、なぜそうできなかったのかをお伺いします。

次に、この事業というのを進めるに当たって、この事業が最優先に取り組む事業なのか、そうではないのか。市長の答弁では、最優先に取り組むとは言っていないと言っている。ところが、総務文教で示された個別施設計画の見直し案にはこの案件を最優先に進めると書いてある。それはどういう意味なのか、その整合性についてお伺いします。

委員長

関藤委員、改めて申し上げます。今関藤委員が質疑されていた部分については、新年度予算には入ってきておりませんが、今質疑されたことはこれからここに案で出ている基本計画とは密接な関係があるのかどうか、関藤委員に確認します。

関藤
委員長

あります。

どうでしょうか。所管のほうでお答えできますか。部長、お答えできますか。お答えできる範囲でよろしくお願ひします。

加地部長

今の関藤委員からの基本構想と基本計画、新年度で基本計画という形で私どもとしては予算を計上させていただいているという状況です。基本構想につきましてもせんだっての総務文教常任委員会で2回ほど開催させていただいた経緯もあります。また、昨年11月には、中間報告という形で基本構想の策定状況についてご報告申し上げてきたというような経過の中で、今大きく2点と言われ

て、細かくいけば6点ぐらいあったかと思うのですけれども、それぞれの項目について回答できる部分、回答できない部分、回答に値するか、値しないかというところも当然委員の立場からいけば不満足な部分もあるかもしれませんが、私どもとして今回回答できる部分については回答させていただくというような対応を図らせていただきたいと思いますと思っております。

山下係長

質疑のありました部分についてお答えします。

まず、どの程度の意見を反映をしたのかと、基本構想の原案についてのご質疑ですが、6点目にご質疑をいただいた原案の前に示すべき段階があったのではないかという質疑と関連している部分もあろうかと思っておりますので、併せてお答えさせていただきます。まず、基本構想については、この間策定を進めてきた滝川市総合計画や滝川市立地適正化計画が令和5年度以降スタートしたことを踏まえて、駅周辺整備事業を実施するに伴い策定をしたものになります。この構想については、検討をするということでこの間お話をさせていただきましたが、改めて申し上げますとあくまで総合計画や立地適正化計画にて市民の皆さんや住民の皆さんから集めた意見を再度駅周辺整備事業に適用するために整理をするというような作業を行ってまいりました。そのためこの構想の原案にかかって、アンケート調査やそれに伴うヒアリング等を実施してきたことはなく、原案までについてはその幾つもあった資料を再構成、再整理する中で原案を導いてきたというような状況になっています。そのため原案が出来上がった時点で、整理の仕方も含めてパブリックコメント等において住民の皆様から意見を頂戴をしたというような状況になっています。

続いて、基本構想のイメージの部分で3点ございました。誰がどのように決めたのかという部分ですが、今ほど答弁させていただいたとおり、再整理する中で内部検討を進める段階において、今回整備方針として構想の中でお示しをした旧スマイルビル、旧バスターミナル、旧トピアビル、旧小林ビル、これらを含めた方針5点について官民連携も含めて整備をしていくというような方針を基にイメージをしていただくためにも、あくまでイメージとして3つのパターンをお示しをさせていただいたところになります。そのためこの部分については、内部で議論を進める中で整備の想定されるものとしてお示しをしたというような状況です。

続いて、基本計画においてこの3つのパターンの中から選ぶのかというようなご質疑もございました。基本計画においては、あくまで基本構想でお示しをした先ほど申し上げたこの5点について、この方針を具現化するために改めて皆さんのご意見も伺いながら、整備計画について検討していきたいというふうに思っています。パターンを選ぶのではなくて、改めて検討していきたいというふうに思っています。

加地部長

若干係長のほうからの答弁とダブる部分があるかもしれませんが、私の聞き取った内容からいきますと、3パターンのうちのその根拠という部分で金額的な部分を言われているのかなと思っていたのですが、そうではないですか。金額的な部分ですね。金額的な部分につきましては、基本構想の中の想定の中で少し字が小さくなっているかもしれませんが、今までの他の自治体において作成されたホール、その部分の単価を基礎として、建設デフレーターといった物価上昇を一定程度見込んだ形で単価をこちらとしては導き出したという状況になってございます。あわせて、解体につきましても同様に街なかにあるようなあ

あいつたビルの解体費という部分を見込んだ実績に基づいて、一定程度想定
の事業費を見込んだ中での単価の積み上げを行ったという状況の中で面積等々を
今回は3パターンイメージとしてお示しをしておりますので、その3パターン
に基づいた積算をした結果ということでご理解をいただきたいと思っております。

あと、財政難の関係につきましては、財政課長のほうから申し述べさせていただきます。

あと、事業計画の部分についての市長の答弁の中で、いろんな事情の中で、社
会情勢の変化の中でこの事業について立ち止まることのあるのかというような
ことに対する当然の判断としてそういった部分については立ち止まるという
ことを考えていると。なおかつそういった基本計画にならないということを入
イメージしております。その部分につきましては、あくまでも我々としては委員
会の中でも本会議の今回の市長答弁の中でも身の丈といった言葉を使わせて
いただいております。それぞれ市民の皆さんからご意見、ご要望等を聞いていき
ますと、過大なもの、そういったものを当然想定されるところがあります。そ
の中で、我々が許される財政の範囲内という部分を一定程度時間を設ける中で
我々としてはシミュレーションをする中で、そういった時間も確保する中で
ということで答弁もさせていただいておりますけれども、そういった部分を見据
えて身の丈に合ったバランス感覚の合う施設を我々としては整備のほうを考
えていきたいというふうに考えております。当然にこれからの市民生活に影響を
与えるような、大きく市民生活を阻害していくような施設整備をこれから進め
ましょうというようなものはイメージしていないということは、これまでも何
度も答弁させていただいてきたという状況でございます。

以上が私からの答弁とさせていただきます。

景由課長

今部長のほうから答弁があったことが基本にはなってきますけれども、財政面
のご質疑について答弁をさせていただきますが、令和6年から令和8年の財政
運営基本方針ということで10月20日の総務文教で各委員の皆様にはご説明をさ
せていただきましたが、その中で投資的事業につきましては財政的なリスクを
常に精査した上で実施の可否を決定すると。財政的視点から決定をする、否も
含めて決定をするということで方針を決めさせていただいております。それと、
財政の安全性を確保するのだという基本方針の中で、財政調整基金を18億円以
上、標準財政規模の15パーセントに相当する額ですけれども、18億円以上を確
保する。これは、先日の3月補正で議決をいただきまして、18億円は既に積み
上がるという予定でおります。今後何が起こるか分かりませんが、それ
に対するリスクヘッジはこれで、これ以上積み上げるという予定でございます
けれども、今の段階では18億円積み上がっているということでございます。

それと、もう一つ、安全性の確保というところでは、市立病院の健全経営の継
続というところを最優先をするというところで、こちらも現状では分かりませ
んけれども、そういうものも含めて駅周辺整備事業だけではなくて、ほかの取
り巻く財政状況に対しては、リスクヘッジをして進んでいくということでござ
います。基本計画の策定段階で財政が行き詰まるような計画にはしないという
答弁をさせていただいたかというふうに思います。これは当然のことかという
ふうに思います。そんな計画は認められませんし、それを市民の前に出すなん
ていう恥ずかしいことはいたしません。財政難というのはどういう状況なのか

というのは、いろいろなパターン、状況があるかというふうには思いますけれども、基本的には基金に頼らない財政運営をするということを基本にしておりますけれども、やっぱり一定額の基金を投入してもやむを得ない状況ではあるかなと思います。その基金を投入して何とか財政運営ができる状態、これを維持していくということ、それと市民にとって必要なサービスを維持していくということの状況だというふうに捉えております。

関 藤

ただいまの答弁の中で2点ほどお伺いしたいのですけれども、アンケートだとかヒアリングなどは実施していないというご答弁いただいているのですけれども、なぜ実施できなかったのか。

また、身の丈に合った形でという答弁で、何回もこれは出てくる言葉ですけれども、この身の丈というのはそれぞれによって考え方が違うのではないかと思うのですが、その身の丈というのはどの程度を身の丈と考えているのかというのを示していただけないと、我々もそれをどう判断していいのか、30億円が身の丈なのか、50億円が身の丈なのか、100億円が身の丈なのか私たちには分からないので、今そちらのほうの部局で考えている身の丈とは具体的にどの程度のことかというのをお伺いしたいのがもう一点です。

それと、答弁いただけなかったのですけれども、最優先として考えているのですか、これ。それとも最優先ではないという市長の答弁が正しいのですか。

委員 長

関藤委員、今までの本会議、あるいはそういった委員会での発言、いろいろ聞いてきていると思うのです。さらにここで改めて聞き直すということでしょうか。所管のほうは答弁できますか。答弁できる範囲内で結構ですから。解明されたものについては答弁する必要ございません。

柴 田

今の議論を聞いていますと、もう質疑留保をして、市長の総括質疑にいて、その場で市長に聞いていただくのが一番手っ取り早いと思います。所管の域を超えていると思いますので、そこは委員長のほうで指揮をしていただきたいと思います。

委員 長

今柴田委員のほうからそのような発言がございましたけれども、皆さん、ほかの委員の方はどうですか。

関 藤

質疑の留保をするかどうかを判断するのは私ですので、次の答弁を聞いてから質疑の留保を考えておりますので、委員長のさばきでよろしく願います。

委員 長

柴田委員、関藤委員そのように言われていますので、取りあえず答弁を聞いてみたいと思います。よろしいですか。

それでは、答弁を求めます。

加地部長

3点ほどご質疑があったかと思いますが、まずアンケート、ヒアリングを実施していないと、なぜしていなかったのかということについては、昨年来から当然スマイルビルにつきましては、ご存じのとおり所有権を取るという作業をまず私たちとしては同時並行的に行ってきたと。その中で、当然に他人様のものをどんどん、どんどん勝手に市民の皆さんを巻き込んでどんなことがいいですかというような議論というのは、かなり乱暴であろうと私どもとしても感じたところがございます。あわせて、今回基本構想という形で、イメージという形で一定程度駅前としての必要なしつらえ機能、そういったものがどういったものが必要かという部分を幅広く今回はお示しをさせていただいたと。そして、前段にも話をさせていただきましたが、特別委員会まで設けていただく中で総合計画を作成した経過、立地適正化計画の中で市民委員会を立ち上げて、その

中で意見を聞いてきた経過、また今回基本構想においても中心市街地活性化協議会たる組織がございますが、そういった組織においても16団体が加盟する中で意見も聞いてきていると。あわせて、パブリックコメントも今回実施をさせていただいて、今月末には皆さんのほうにその結果をお示ししたいというふうに考えております。そのようなことで我々としては作業を進めてきたというような状況をご理解いただきたいと思いますと思っております。

2つ目、身の丈に合った部分についてのそれぞれの感覚があるだろうという部分についてです。当然にそれぞれの感覚があろうかと思えます。しかしながら、これは一定程度財政的な部分が滝川市にとってどこまで許されるのかというのは、議論をしていく中で出てくる話ではないかと私としては考えております。頭から滝川市として何十億円が正解ではないですかというような中で議論をするのも一つかもしれません。一方でそういった部分を示さずに幅広い意見を聞く中で、皆さんこういった工夫はできませんかというようなところを他の事業とのバランスも見ながら見定めていくという作業をこれからスタートをしていきたいと思いますという段階でございます。その上において、はなから何億円ですということをお示しするのは大変失礼な話ではないかということで我々としても感じたところがございます。しかしながら、今回の基本構想の中では一定程度金額をお示しをしていくということの中で3つのパターンをお示しさせていただいたというところでございます。

そして、3つ目、最優先というようなことで市長の答弁、私も議場におりますので、私は言っていないというような答弁はお聞きました。総務文教常任委員会としての資料も確認させていただいた結果、最優先というような記載がございます。最優先というものに対して市長としても議場の中で答弁しておりましたが、第一小学校と同時並行的に実施をしていくのだということで、それぞれに優先度のものというものはあるだろうという中で、再質疑の中でも同時という部分になったときどうなのだというような話もありました。建設事業が一定程度に重なるというようなものは議論の余地はあるのではないかというような答弁に終始したと私としては認識をしております。そのような私としての理解ということで答弁をさせていただきます。

関 藤 それでは、これ以上の答弁は求めませんので、質疑の留保をさせていただきたいと思えます。

委員 長 確認させていただきます。質疑の留保は何に対してですか。

関 藤 1点目、財政難となる計画は想定していないという中において、やはり市長の考える身の丈とは具体的にどういった規模のことなのかお尋ねしたい。

2点目は、今いただいた優先順位について、市長は最優先とは言っていない、しかしここに総務文教で出された内容では最優先に取り組むとされている。そこで個別施設計画の見直しとの整合性についてお尋ねします。

委員 長 2点ですね。確認させていただきます。財政難とは言っているけれども、身の丈とはどういうものなのかということですね、1点目は。2点目、優先順位について、公共施設個別施設計画との関係でどうなのだと、この2点でよろしいですか。

それでは、ただいま関藤委員から質疑留保ということで2件示されましたけれども、確認してよろしいですか。異議ないですか。

(異議なしの声あり)

委員長

それでは、異議なしと認めたいと思います。

他に質疑ありますか。

高橋

委員長のお許しをいただきましたので、以下の4点質疑いたします。

ふるさと基金積立金は、来年度が28億8,727万1,000円の見込みとこちらの概要版の25ページに記載があります。今まで堅実に積み立ててきたと思うのですが、何か目標はあるのでしょうか。一般的に人は何か具体的な目的があつて、こつこつやりくりをしながら貯金をすることが多いです。もしふるさと基金を今後使うことになる場合、どんなことが想定されるのかを伺います。

2点目、こちらの予算書の69ページ、定住自立圏構想の推進に要する経費というところに45万5,000円とございまして、ホームページを調べますと今年度の取組として中空知合同企業説明会の開催を行ったとありました。令和6年度は、どのような取組を予定しているのかを伺います。

3点目、71ページの説明欄のところに記載の様々な建物の改修工事や解体工事が入っていると思うのですが、もし今後社会情勢等の変化で工事費や工期等が大きく変動してしまった場合は、どのようなやりくりを想定しているのか。また、優先順位はあるのかについて伺います。

そして、75ページ、バスの購入費、中型バスを2台購入するという事なのですけれども、これからはバスの大きさよりも環境に配慮したり、身体障がい者や足腰に不安のある高齢者に対応できる機能性や台数が必要であると考えています。乗客の人数やニーズに合わせたサイズや機能などの検討はどのように考えているのかを伺います。

以上、4点です。

林係長

ふるさと基金積立ての目標と使い道についての質疑だったかと思えます。まず、ふるさと基金につきましては、ふるさと納税や企業版ふるさと納税のほか、一般寄附金を積み立てておりますが、寄附者のご意向に沿った事業の財源として活用するために積み立てておまして、毎年各事業の財源として活用させていただいております。また、今後個別施設計画に基づく公共施設整備を予定しておりますが、その財源として活用していくことも計画の前提としておるところです。委員のご指摘のとおり、またふるさと納税の趣旨から考えましても、ふるさと基金はただためておくということではなく、財政状況を踏まえつつではありますが、基本的には市の重要施策に有効に活用していきたいという考えであります。

安樂係長

私からは、定住自立圏構想の令和6年度の取組についてご答弁させていただきます。

まずもって中空知定住自立圏構想を構成しております10市町におきましては、定住自立圏形成協定というものがございまして、それに基づきまして19項目の施策について各市町の連携により推進するとともに、中心市を担っております滝川市としましては、圏域内の民間ですとか地域の関係者で構成する中空知定住自立圏共生ビジョン懇談会というものですとか、あとは構成市町長による協議、承認等を経て毎年そういった施策推進状況の進捗管理を行っているというところがございます。これにつきましては、令和6年度も実施いたします。

なお、委員からもご発言ありました中空知合同企業説明会につきましては、これは中空知定住自立圏構想推進会議の主催事業として、令和6年度においても実施する事業となっております。

常盤係長

私のほうから71ページ記載の改修や解体工事の予算につきまして説明させていただきます。

こちらにつきましては、経過年数、危険度、法的など様々な視点を客観的に点数化したしまして優先順位を決めておりまして、その中から予算の範囲内で実施可能なものを計上して、毎年改修や解体を実施しているところです。

次に、工事費が大きく変動した場合についてのご質疑ですが、工事費が大きく変動した場合は入札の不調や不落が起きてしまうことが予想されますが、そのような場合は変動した金額について調査をした上での判断になろうかとは思いますが、予算の組み直しや補正予算の計上、または次年度予算に計上するなど、どのように対応ができるかを検討して、可能な限り実施できるよう進めることとなります。

また、社会情勢等で工期が大きく変動した場合という質疑ですが、必要な資材の納期が遅いため工期が延びてしまうなどの場合につきましては、安全性の確保を第一に、応急処置をすることも考えながらですが、次年度に予算を繰り越して2か年で改修を行うなども検討することとなります。

横田課長補佐

私のほうからバスの購入についてご説明させていただきたいというふうに思います。

中型バスの2台を購入ということで、これについて大きさ、環境配慮、あとニーズの検討ということだと思っておりますが、まず今回バスが終了になるというふうになったきっかけにつきましては、運転手不足というのが大きな要因かなというふうに考えているところではあります。市内線につきましては直近の1年間で約15万人以上のまだ利用者がいるというものに対し、できるだけ少ない運転手で効率的に輸送する手段としては、やはり中型バスの大きさが必要だというふうに判断をしているところであります。そのほか環境に配慮ということで、この予算を計上させていただくに当たって実は電気バスというのも環境配慮の面からも想定をして検討した部分がございますが、現在のところ国内の国産での電気バスというものでこの滝川環境で耐え得る、保証されている寒冷地仕様のバスがないということと、あと海外製で、中国製なのですけれども、電気バスというのがございますが、やはり充電の方法だとか様々まだ課題が残るというようなことがありまして、令和7年に間違いなく市民の足を確保するというためには、従来のディーゼルエンジンの車両を検討するしかないなというところにまず至ったのが1点です。

そのほか利用者のニーズということにはなるのですが、今購入を予定している車両につきましては、自動ではないのですけれども、もちろん乗り降りするのにスロープが脱着式でつけられたりだとか、または車椅子用のスペースとして一部座席が跳ね上げられて、かつ車椅子を安定的に固定できるフックみたいなのがついていたりだとか、そういうような配慮もされている車両だというふうに考えておりますので、もちろん人数だけではなくて、乗られる方のニーズも併せて検討しているというふうに考えております。

委員長
好川

ほかに質疑ありますか。

2点ほどお聞かせいただきたいと思いますけれども、73ページにあります総務費、財産管理費の関係ですけれども、ここにあります航空動態博物館改修工事に3,100万円という数字がありますけれども、もう少し具体的にどういう工事なのかを教えてくださいというふうに思います。

2点目ですけれども、滝川西高等学校のグラウンド防球ネット改修工事、これは以前からの計画どおりということの認識でよろしいかお聞かせをいただきたい。

75ページになりますけれども、市民生活推進費の中でコミュニティ施設の運営管理に要する経費ということで2,700万円ほど計画をしておりますけれども、この中身については管理代行負担金ということの名称でいいと思うのですが、内容がちょっと分かりませんので、もう少し具体的にこの内容についてお聞かせをいただきたいというふうに思います。

委員長

好川委員、ちょっと確認させていただきますが、最後の3点目のコミュニティ施設の運営管理に要する経費について質疑されましたけれども、その他諸費の内訳……管理代行負担金……ちよっともう一度説明をお願いします。

好川

コミュニティ施設の運営管理に要する経費ですけれども、その中の内訳の中で管理代行負担金というふうになっておりますけれども、具体的にはどういうことかちょっと分かりませんので、例えば人件費であるとか、そういうふうな内訳があるのかどうかということです。

委員長
常盤係長

それでは、以上3点答弁願います。

まず、滝川市航空動態博物館改修工事の中身ですが、こちら改修の中身としましては、状況が雨漏り、外壁の破損、腐食が進行していることから、ALC板で全体のシーリングなど外壁からの漏水を改修する工事となっております。

もう一点、西高の防球ネットの件ですが、計画どおりかということなのですが、今回のこの改修解体枠につきましては令和5年度の6月からずっと次年度の改修解体枠の調査をしまして、その中で優先順位を決めてやった中身として、中身としては西高の野球のフェンスの道路側のほうのネット、あとはテニスコートのネット等の改修となっております。

小松田係長

コミュニティセンターの2,637万7,000円の内訳ということですが、市内11館のコミュニティセンターの指定管理代行負担金となっております。内訳としては、燃料費や電気料、上下水道料などの維持管理費、管理人の人件費などになっております。

委員長

ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員長

それでは、以上をもちまして総務費、関連議案第14号、それと総務費の関連議案第15号の質疑を終結いたします。

ここで所管の入替えのため暫時休憩いたします。

休 憩 14:16

再 開 14:21

委員長

それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

消防費、公債費、諸支出金、職員費、予備費

委員長
和田部長

消防費、公債費、諸支出金、職員費、予備費を一括して説明願います。

(消防費、公債費、諸支出金、職員費、予備費について増減の主なものなどを説明する。)

委員長

それでは、説明が終わりました。

これより一括質疑に入ります。

質疑ございますでしょうか。

柴田

2点お尋ねします。

135ページ、災害対策に要する経費、災害廃棄物処理計画策定支援業務委託料313万5,000円とありますが、この災害廃棄物処理計画はどの段階までの計画をつくらうとされているのか。最終的な災害廃棄物の処理までの計画をつくらうとされているのか、それとも初期段階で、初動で対応するそういった計画をつくられようとしているのか、その点お伺いをおきたいと思います。

それと、これは多分災害の関係ですから、総務部が担当しているということで考えてよろしいですか。

それと、もう一点は、振興公社に対する貸付金の減少の理由についてお伺いをおきたいと思います。

委員長
近藤主幹

答弁を求めます。

柴田委員のご質疑に答弁させていただきたいと思います。

災害廃棄物処理計画につきましては、災害の発生時に発生する廃棄物の処理から最終的な処分までに至る全ての計画について策定する状況でございます。この所管については、現時点におきましては市民生活部くらし支援課で行っておりますが、防災計画との連携が非常に密接な関係がありますので、この計画の策定に当たりましては防災危機対策課と連携しながら作業を進めていきたいと思っております。

熊谷係長

振興公社貸付金の1,000万円の減ですが、平成30年度に振興公社の経営推進計画を策定しまして、令和元年度から令和10年度までの10か年において毎年この貸付金1,000万円を市に返済する計画となっております、振興公社の経営努力によってこれがなされているという状況でございます。

柴田

災害廃棄物処理計画について再度質疑したいのですが、想定される災害の強度によってこういう計画というのは相当変わり得るのではなかろうかと思うのです。ですから、私は先ほど初動の段階までの計画なのか、最終段階までの計画なのかということをお聞きしたのですが、本当に現段階でどの程度の災害を予定して計画を策定するのかということについてもう一度お考えをお伺いしておきたいと思っております。

委員長
近藤主幹

答弁を求めます。

災害の規模につきましては、現段階でも防災計画におきましては地震と水害が想定されまして、その規模を現時点におきます最大規模として検討する形になっております。ただ、様々な状況がありまして、その状況におきまして例えば避難者の数とか、そうした部分や災害派遣車両も被害地域の想定に、面積によって変わる形もありますので、そうした中でもやはり防災計画と連動する形で、この計画が一体的にスムーズに進む形で検討しなければいけないというふうには考えております。特に必要なのは、初段におきましてはやはり人命救助が第一優先でございまして、一たび落ち着きますと、皆さんテレビも見ていただいて分かると思っておりますが、生活の第一歩としまして処理が始まります。その処理がスムーズに進まないことになりまして、例えば衛生的な問題とか、道路が被災している状況がありますので、速やかな除却と将来に向けて廃棄物が処理できるそのスムーズな計画を一連性として計画しなければいけないというふうには考えております。

柴田

やっぱり分からないのです、そこが。それで、何でくらし支援課がやっているのですか。これは防災計画に基づいて、きちっとした対応ができるような計画づくりをするということであれば、最初の段階から防災のほうで計画策定を行

うということのほうが私はより自然だと思うのですが、そこら辺はどうお考えなのでしょうか。

橋本課長

災害廃棄物処理計画ということで、当然災害時のいろんな想定が考えられるところなのですが、廃棄物処理ということでは様々な廃棄物に関する法令だとか、そういったこととふだんの廃棄物処理事業者、委託事業者との関係ですとか廃棄物関係の法令の関係ですとか、そういった専門的な廃棄物処理を行うにはそういったものが必要だということで、基本的に平時の廃棄物処理との延長線上としての災害時の廃棄物処理かなと私どもでは考えております。先ほどおっしゃられたようにやはり想定がかなり難しいと。本当に最大規模の災害に対する場合の廃棄物処理とある程度そこそこのというか、それによってもかなり違って来るかとは思いますが、その辺ほかの各市町村等の災害廃棄物処理計画がどの辺を落としどころにしているかだとか、そういったことも含めて委託事業者にはアドバイスをいただいたりだとか、そういった他市の事例等を参考にしながら、我々も当然一緒にやっていきたいというふうに考えております。

柴 田

やっぱりちょっと納得できないのです。想定された災害というものが防災計画づくりには最大限必要だと。例えばです。水害を想定されていると言っていましたよね。水害がこの地域に相当な災害をもたらしたときに、廃棄物処理車なんて出せなくなってしまうのではないかと、様々な想定されることがあるのです。なのに、その想定がなされないで計画づくりは多分できないと思うのですが、少なくとも防災計画をつくる段階で水害がついたときに車両が使えなくなる、ほとんどの車両は坂下のほうにあるのです。坂の上にあるところもあります。でも、その車両が本当に移動できるのかといたら、なかなかそれが無理だという場合に、そもそものこの計画の根底が崩れてしまう。そのことも含めて、ちょっと理解できるような説明をもう一度欲しいのですが、よろしくお願ひします。

委員 長

答弁を求めます。

橋本課長

おっしゃられますとおり、確かに最悪のことを考えると何もできなくなってしまうというのは、本当にいろんなところからいろんな支援を引っ張ってきて、そういった対策を組まなければいけないというところでは、その想定する災害の規模をどこまでシビアに見るかというのも一つ非常に難しい問題ではあるかと思ひます。先ほど、ちょっとごめんなさい、質疑のおっしゃられている意図が例えば坂下の車の話がありましたが、そういった場合にはこの滝川市の市内業者が難しいという場合であれば、それは北海道ですとか、そういったところに支援を求める、そういった事業者団体のほうに広域的な協力体制を求めるだとか、そういったことが出てくるかと思うのですが、それは我々防災担当としてもそうですけれども、日頃から廃棄物処理の連携を持っている廃棄物処理所管と一緒にやっていかなければいけないかなということでは、そういったこともいろんな想定を含めて、この計画づくりの中ではそういった議論を深めながら、本当に幅がある想定というのは難しいところではあるのですが、どの辺を落としどころにするかだとか、そういったところも含めていろんな議論をしながら、計画づくりをしていきたいと思ひております。

委員 長

ほかに質疑ありますか。

副委員 長

159ページ、職員費の中で職員の数、職員が330人ですが、去年から4名増えて

小畑課長 いるのですけれども、どこに4名を振り分けますか。その部署をお聞きします。ただいまご質疑いただきました職員費の職員の数が増えている関係についてですけれども、現在も4月1日の人事に向けて作業をしている最中でございます。今ちょっとまだ確定したことは言えない状況でございますけれども、いろいろな行政課題がありますので、そういったところに配置をするように、工夫をして配置するようにしていきたいというふうに考えております。

委員長 ほかに質疑ありますか。

(なしの声あり)

委員長 ほかに質疑がございませんので、質疑の留保はございますか。

(なしの声あり)

委員長 それでは、そのように決定したいと思います。

以上で消防費、公債費、諸支出金、職員費、予備費の質疑を終結いたします。ここで所管の入替えのため暫時休憩しますが、再開を14時40分とさせていただきます。

休 憩 14:37

再 開 14:40

委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

民生費

委員長 民生費の説明を求めます。

横山部長 (民生費について説明する。)

委員長 説明が終わりました。

これより関連議案第19号、第22号を含め一括質疑に入ります。質疑ございますか。

高 橋 委員長からお許しいたきましたので、大きく5点お聞きします。

1点目、85ページの民生委員の活動に要する経費に1,036万6,000円と書いてあるのですけれども、昨今民生委員の方から成り手不足と高齢化で大変なのだということをお聞きしました。今の民生委員の人数と平均年齢がどれくらいなのか、そしてこの人数不足の問題に対して何か手だては考えているのかをお伺いします。

2点目、84ページの障害者福祉費について伺います。3.3パーセントの増額と書いてあるのですけれども、この原因は障がい者自立支援を受けるニーズが増えているのかという認識でよろしいでしょうか。また、この中で新たに来年度から始められる事業等があれば、概要を併せて伺います。

3点目、児童手当についてです。91ページです。第3子以降は月額3万円に増やし、第1子が22歳に達する年度末までということですが、これは第3子であっても第1子が22歳になった時点で減額になるという認識でよろしいのでしょうか。

そして、4点目、93ページの地域子育て力強化事業に要する経費に99万9,000円と書いてあるのですけれども、具体的な内容について伺いたしたいと思います。続いて、同じページの子供の成長と子育て支援体制の充実の滝川市こども計画策定事業(仮称)、こちらの事業なのですが、ホームページで確認しましたところ昨年12月に滝川市子ども・子育て会議の公募委員1名の募集というのがありまして、これはこの滝川市こども計画のための検討会議とはまた別のものなのでしょうか。そしてまた、策定までの会議のスケジュール、それから計画を

策定したら解散するののかについて、3点こちら伺います。

最後、5点目の質疑は、96ページ、障害児福祉費が0.9パーセント増額となっていますが、こちらは物価高騰に対応するための増額なのか。子供の人数は減っているのに、なぜ増加したのかということをお聞きしたいと思います。

委員長
平沼係長

以上5点、答弁願います。

ただいまの質疑、1点目の民生委員に関する部分お答えさせていただきます。現在の民生委員児童委員の人数は93名で、平均年齢は71.4歳となっております。成り手不足の解消は、常に喫緊の課題であると認識しておりまして、令和7年度の次期改選を見据え、役員と協力体制をより強化し、既存委員のより一層の定着化を図るほか、町内会等を通じた委員候補者の掘り起こしを強化するなど、従来よりも早期に着手し、成り手不足の解消に努めてまいりたいと考えております。また、改選の時期だけでなく、常時役員をはじめとした委員の皆さんと協力して委員候補者になり得る方の情報を集めまして、勧誘に伺うなどしており、お引受けいただける場合は任期途中であっても随時委嘱をさせていただいているところです。

林課長補佐

私から2点目と5点目の質疑についてお答えさせていただきます。

障害者福祉費の増額につきましては、障害者自立支援給付に要する経費のうち、扶助費で障がい福祉サービスの利用に係る給付の増加が主なものとなっております。人口の減少に伴いまして障害者手帳の所持者は減少する傾向にありますが、知的障がいや発達障がい等によりサービスを必要とされる方は増加しております。特にグループホームの利用や就労継続支援A型、B型の事業所への通所が増えておりまして、これらのサービスは障がいのある方が地域において自立した日常生活や社会生活を送ることができるよう、そのニーズに対して支援していくものであり、障害者福祉費の増額の要因となっております。

なお、障害者福祉費におきまして令和6年度から新たに始める事業は特にありません。

続きまして、4目障害児福祉費についてですが、こちらの増額につきましては障害児支援給付に要する経費のうち扶助費で、障がい児通所支援の利用に係る給付費の増加によるものとなっております。これは、物価高騰といいますよりは障がい児通所支援のうち小学校就学前の児童が通所する児童発達支援を提供する事業所が増加したことに伴いまして、発達支援の利用が増えていることが増額の主な要因となっております。

伊藤係長

大きく3点目の児童手当に関する質疑のお答えになりますけれども、児童手当の第3子以降の加算に関する質疑について、第1子が22歳に到達した年度の末まで算定児童に含めて考えますので、年度末までは減額せずに、翌年度の4月から減額という形になります。

高橋室長

まず、地域子育て力強化事業に関する質疑に対してですけれども、こちらの事業の具体的な内容につきましては、従来から実施しているファミリーサポートセンターの事業、こちらが例えば会員の補償保険ですとかサブリーダー2名の報償費などなのですけれども、56万7,000円、それから2人目以降のお子さん誕生時にご家庭を訪問するこんにちは赤ちゃん訪問事業、こちらは訪問同行員の報酬などなのですけれども、32万8,000円、もう一つが子育てに対して不安や孤立感を抱える家庭などに対し、保健師等が指導、助言を行う養育支援訪問事業、こちらが主に消耗品なのですけれども、10万4,000円といった内訳になっており

ます。

次に、こども計画策定事業についてですけれども、1点目、こども計画についてはこの募集のありました滝川市子ども・子育て会議で検討を行うもので、同一のものでございます。

2点目、会議のスケジュールですけれども、第1回目の会議を4月中に開催し、年間の全体スケジュールを決めていきたいと思っております。5月からこども計画策定支援業務委託事業として子供の意向調査、若者意向調査、子育て当事者の意向調査を行い、これらのニーズをしっかりと拾っていくと。8月以降にこの調査の結果を踏まえ、二、三回の会議を開催しながら、計画案を策定し、次にこの案を基に子供、若者、保護者からの意見を募集した上で、いただいた意見を反映する形で再度会議を開催し、計画を策定する、そんなスケジュールを考えております。

最後、会議の開催に関してですけれども、この会議については計画策定後においても施策の実施状況などの調査、審議を引き続き行いますので、次年度以降も継続するものとなっております。

高 橋

3点ほど再質疑させてください。民生委員の皆さんについてなのですが、やはりなかなか目の届かないところを見て行政につなげる、まさに地域の目と耳となってくださっています。全ての団塊世代が後期高齢者となる来年、2025年問題を迎える前に早く対策を打つべきなのですが、報酬を上げる等では解決しない難しい問題であると思っております。募集のためにより効果的な広報活動も必要であると考えますが、今後の活動はどのように考えていますでしょうか。

2点目は児童手当のことです。例えばうちの子供の話になってしまうのですが、第1子と第3子の間の年齢差が7年ある家庭なのですけれども、上の子が22歳に達したとき15歳の末っ子の児童手当は減ってしまいます。生まれる順番や年齢間隔によって不公平が生まれると思っておりますが、その点についてどのように考えるのかを伺います。

また、私のほうで所管に確認しましたところ、滝川市には第3子以降の未成年者は全体の1割程度なのだそうで、令和6年1月時点で市の未成年者は4,651人ということで、第3子以降の子供は推定で450人ほどいるとされています。これは、規模的に例として挙げると95ページにある市内5か所全ての保育所にいる子供の定員とほぼ同数です。この450人弱の子供たち本人が成人になるまで支給をそのままにするのはとてもいいことだと考えるのですけれども、どのように考えるかを伺います。

そして、もう一つ、もしも第1子が未成年のうちに死亡した場合、この第3子以降の扱いはどうなるのかを伺います。

3点目、最後の再質疑なのですけれども、こども計画策定事業、こちらの会議についてなのですが、会議には託児がついているのでしょうか。また、傍聴は可能なのでしょうか。さらに、市の広報掲載やホームページでの掲載のほかに、この事業活動を周知する上で世代的にはSNSやこれから運用する子育てアプリ等を有効活用すべきと考えますが、どのように考えますでしょうか。

以上、3点お伺いします。

委員 長
平沼係長

答弁を求めます。

ただいまの質疑の1点目の民生委員の件についてご回答いたします。

広報活動につきましては、自衛隊隊友会の総会や欠員の多い地区の一部の連合町内会の総会、町連協理事会などで機会をいただき、現状の説明や成り手募集のPRをさせていただいておりますほか、町連協のご協力の下、エフエムG 'S k yでPRの機会をいただくなど、様々に努力しているところであり、今後もいろいろと検討していきたいと考えております。しかしながら、民生委員は重たい個人情報を取り扱う住民からの信用が必要な業務でありまして、誰でもいいということではなく、慎重な人選が不可欠となりますことから、単なる広報活動だけではなく、実際に地域に足を運ばせていただきまして、町内会などその地域の実情に詳しい方からよくお話を伺いながら、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

伊藤係長

児童手当の関係で3点のご質疑になるかと思っておりますけれども、まず児童手当の今回の拡充に当たっての国の考えといたしまして、子供の育ちを支える基礎的な経済支援として児童手当が位置づけられておりまして、高校生年代までの支給拡大となっております。また、3人以上の世帯数の割合が特に減少していることや子供の3人以上の世帯による経済的支援の必要性が高いと考えられることなども踏まえて、第3子以降に3万円とする制度設計となっております。それを踏まえまして、1点目の年齢間隔による不公平が生まれるのではないかとという点ですけれども、制度設計をする中で一定の線引きをしなければならぬというところもありますので、やむを得ない部分かなというふうに思います。また、2点目の第3子の子が成人するまでそのままの手当額を支給するのがいいのではないかとという点ですけれども、児童手当制度から外れる自治体独自の制度になりますので、そのような検討は滝川市としてはしておりませんので、恐縮ですが、この場ではお答えしかねます。

高橋室長

3点目の第1子が未成年のうちにお亡くなりになった場合の第3子以降の扱いについてになりますが、お亡くなりになった翌月から多子加算の算定児童に含まれませんので、翌月から減額という形になります。

3点目のこども計画の関係でございますけれども、まず託児についてですが、現状必要とされる方はいませんけれども、必要に応じて柔軟に対応していきたいというふうには考えております。

高 橋

続いて、傍聴についてなのですが、この会議において特段の定めがございません。この会議に諮って傍聴の可否については決定したいと思います。

3つ目のSNSの活用についてですけれども、私も効果的だと考えております。適宜活用の検討をしたいと思っております。

伊藤係長

最後に、1点だけお伺いしたいのですが、児童手当のことについてなのですが、3回から6回に変わると、支給の時期が。今はたしか6月、10月、2月に振り込まれているのですが、新年度から6回ということで、いつ何か月になるのかということをお教えいただきたいです。

委員 長
好 川

制度改正が令和6年10月にされまして、12月から2か月置きに支給という形になります。

ほかに質疑ありますか。

2点ほどお聞かせいただきたいと思いますが、先ほど民生委員の関係で話は伺いましたけれども、今現在民生委員の方が93名と先ほど教えていただきました。実質的には何人不足というふうに数字は出るのでしょうか。

もう一点、報酬についてですが、これは公にしているものなのか。民生委員を

やるとどのぐらいの報酬があるのかというのがほとんど私も含めてですけども、あまり関心ないのか、低いのか、よく分かりませんが、そこら辺もしお答えできるのであればお答えいただきたいというふうに思います。最後ですけども、93ページです。うまれてくれてありがとう！健やか赤ちゃん支援事業に要する経費が953万5,000円というふうになっておりますけれども、実はこれは昨年度250万円程度だったというふうに記憶しているのですけれども、これはこれほど大きく上がる計画をしたというのは何か意図があるのか。そういう状態になるということがあるのか、お答えいただきたいというふうに思います。

委員長
平沼係長

質疑が終わりましたので、答弁を求めます。

ただいまのご質疑の1点目、まず民生委員の欠員についてお答えさせていただきます。

定数が117名となっております、現在委員が93名いらっしゃいますので、欠員は24名となっております。

また、2点目のご質疑なのですけれども、報酬ということでしたけれども、民生委員の身分は国から委嘱された非常勤の地方公務員で、民生委員法の定めにより給与や報酬は支給されないこととなっております。ただ、ボランティアとして活動している一方で、経費は活動費として支給をさせていただいておるところでございます。

菊地係長

私からは、うまれてくれてありがとう！赤ちゃんクーポンの関係でお話をさせていただきます。

予算の積算につきましては、出生数はもちろんのこと他市からの転入の部分も含めまして当初予算を積算させていただいておりますので、クーポンの支給につきましては必ずしも満額当たるというわけではなく、転入の時期によりましてそれぞれ金額が若干異なる形になります。その全てを想定いたしまして積算しますと、当初予算がどうしてもこのような形で大きな額になってしまうということで、昨年度の執行額250万円程度ということでございましたけれども、当初の予算としましては令和6年度分、それから今クーポンの対象になっている方で次年度クーポンの支給を受けられる方の額、それから転入者の方の分というのを積算しまして当初予算とさせていただいております。

田上課長

今のご回答ですが、すみません、数字として昨年度の実績として280万円というお話だったと思うのですけれども……250万円。そちらにつきましては、令和4年度の予算ではなかったでしょうか。決算か。令和4年度の決算だと思います。令和4年につきましては、令和4年4月からスタートしているものですから、そこから事業がスタートしているのです、その年度はそのぐらいの額でした。令和5年度予算につきましては1,100万円を計上させていただいております。計上の内容としましては、今係長のほうからご説明があった内容を基に積算をさせていただきまして、実際に根拠が生まれたお子さんですとか転入してきたお子さんが減ったことから、今年度は少し人数が減ったということになっております。

好川

去年の250万円については、聞き方として訂正をさせていただきたいと思います。今のお答えで了解しました。

委員長
副委員長

ほかに質疑ありますか。

私のほうからは、1件だけお願いします。ページ数89ページ、3款1項3目の

老人福祉費、備考欄に敬老特別乗車証に要する経費1,118万4,000円、この内訳なのですから、対象者数と積算基礎を教えてください。

庄野係長

敬老特別乗車証の対象者数ですが、直近では2,320人が敬老特別乗車証を持っております。その方に対して令和6年度も周知いたしまして、敬老特別乗車証の更新を予定しておりますので、また整理券をそのときにお渡ししまして、負担金であります100円と整理券を運賃箱に入れていただきまして集計するという形を取らせていただいております、令和6年度予算計上しております。

副委員長

1,118万4,000円になった内訳を聞きたいということなのです。

委員長

答弁を求めます。

庄野係長

乗車回数を申しますと……内訳……消耗品が幾ら、14万7,000円……そういうことではなくてですか。

副委員長

1,118万4,000円の内訳ということは、今言ったように消耗品が何ぼというのものいいのだけれども、対象人数が2,320人ですか。その何パーセントの100円と掛けるのではないですか。と思います。

庄野係長

積算としましては、敬老パス2,320人の方お持ちしております、整理券を100円と一緒に運賃箱に入れまして、それをバス会社で集計いただきまして、回収しまして、支払いするのですけれども、来年度の乗車回数でいきますと6万9,572回ということ想定して計算しまして、あと1回当たりの平均乗車運賃が148.22円ということから新年度予算の計上をしております。

副委員長

148円22銭掛けることの2,320人ということですか。

庄野係長

148.22円掛ける6万9,572回ということになります。

委員長

ほかに質疑のある方はいらっしゃいますか。

(なしの声あり)

委員長

それでは、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員長

そのように決定いたします。

以上で民生費、関連議案第19号及び第22号の質疑を終結いたします。

ここで所管の入替えのため暫時休憩いたします。再開を15時20分とさせていただきます。

休 憩 15 : 16

再 開 15 : 20

委員長

それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

衛生費

委員長

衛生費の説明を求めます。

横山部長

(衛生費の保健福祉部所管の部分について説明する。)

浦川部長兼理事

(衛生費の市民生活部所管の部分について説明する。)

委員長

説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑ございますでしょうか。

高 橋

委員長のお許しをいただきましたので、1点お聞きいたします。

103ページの産後ケア事業委託料、こちら58万5,000円とあるのですけれども、こちらは今年度の市民の利用実績に基づいた見込みなのでしょうか。お伺いします。

委員長

答弁を求めます。

松本係長

ただいまの産後ケア事業は、利用実績に基づいた見込みなのかというご質疑に

ついてですが、今年度利用実績と妊娠届出時及び妊娠中期、それから新生児訪問時等の妊産婦との面談等の状況も踏まえて、次年度の見込み者数を予測しておりますことから、実態をおおむね網羅した上で積算していると考えております。

高 橋

昨年の私の議会質問と同じようなことをまたお聞きしてしまうのですが、やはり市内で産後ケアを受けたいという声もあると考えます。来年度職員の増強など市内での実施に向けた検討協議はなされないのかをお伺いします。

松本係長

産後ケア事業に関しましては、令和5年度に開始したばかりで、今ようやく事業の認知がされて、少しずつ利用が増えているところであり、砂川市立病院での委託の実施状況を見守っている状況です。市内での産後ケア事業の実施については、国のガイドラインに示された要件を満たす施設の整備や有資格人材の確保が課題であり、来年度の実施についても現時点においては依然として難しいと判断したところです。

委員 長

ほかに質疑ありますか。

藤 田

105ページの空家等の適正管理に要する経費の空家等実態調査委託料について伺いたいのですけれども、具体的にどのような調査を行っていただけるのかというのを分かる範囲で教えていただければと思います。

米内主査

空き家実態調査の具体的な調査内容についてご説明させていただきます。実態調査につきましては、まず調査リストのほうを施行業者のほうと調整をいたしまして作成をした後、受注者が現地に訪問をいたしまして、外観目視により空き家か否かの調査をいたします。また、それに併せまして空き家と思われる建物につきましては、不良度判定というものを実施いたしまして、建物の状態を評価をいたします。外観目視による調査でございますので、例えば屋根ですとか軒ですとか、外壁ですとか窓ガラス、そういったものの損傷の状況、また郵便受けに郵便がたまっていないかどうか、そういったことから空き家か否かというところを外観目視で分かる範囲で確認をした上で調査を行うといった予定でございます。

藤 田

では、具体的にこの空き家は誰のものかというのまで特定できるということなのですか。

米内主査

空き家の所有者についてですけれども、この委託業務の中におきましては、建物が空き家かどうかということで調査をいただいた後の所有者の特定までは含まれておりません。所有者の特定につきましては、この調査結果を基に私どもが自前で登記ですとか、そういったものを活用して特定を行い、その後の業務に活用していくと、そういったことで計画しております。

委員 長

ほかに質疑ありますか。

副委員長

101ページの衛生費の中で4款、1の1、保健衛生総務費の中で休日夜間初期救急維持確保に要する経費のうち、医師報酬2,596万7,000円、何人分を見込んでおりますか。

委員 長

答弁を求めます。

木村課長

ちょっと具体の人数が今手元の資料にはないのですが、北大病院のほうから派遣をさせていただいております、延べ人数でいくと、土曜日1人、日曜日1人というような形でいきますので、1年間でいくと、言うなれば72日ですので、延べ人数は72人という形になりますが、当然ながら来ていただいている先生は順繰り順繰り交代で来ていただいておりますので、72人実際にいるわけではな

委員 長 くて、おおむね20人ぐらいだったのではなかったかと思います。
ほかに質疑ありますか。
(なしの声あり)

委員 長 質疑なしということで、質疑の留保はなしと確認してよろしいですか。
(異議なしの声あり)

委員 長 以上で衛生費の質疑を終結いたします。
委員の皆さんに確認ですが、留保なのですが、総務費の2件ということでよろしいですね。
(異議なしの声あり)

委員 長 それでは、以上で本日の日程は全て終了いたしました。
明日は午前10時から会議を開きます。
本日はこれにて散会いたします。
散 会 15:34